R8学科合格対策 **学科試験で100点を超える方法** 2025年11月15日

1．誰でも「学科試験100点超え」ができる方法

学科試験は、5科目で過去問20年を学習すると誰でも100点を超える（過去問データは嘘をつかない）。
過去問20年は、膨大な量であるが、研究会では簡単に学習できるように下記3講座で解説している。

（1）過去問20年の項目別一覧表
（2）音声ポイント講座
（3）学科YouTube講座

研究会は、短期間の学習で学科試験に合格する方法として、限られた時間を5科目平均に活用するのではなく、法規の点数を集中的に上げた方が良いとの結論に至り、「**法規25点合格法**」を推奨している。これは、法規の過去問20年（H7～H26）を分析した結果、融合問題の項目を除くと93.6％の法文が繰り返し出題されていることから、過去問だけの学習で法規25点が取れるとした。
この内容は、別途解説する「法規25点合格法」を参照してください。

（4）過去問20年の出題法文一覧表
（5）法令集マーカの仕方

学科試験125点満点中、100点を超えると必ず合格できる。研究会は、様々な検討の結果、5科目過去問20年を学習すると、誰でも100点を超えることができると判断している。なお、初出題の選択肢問題もあるが、出題形式が4択という特性から消去法が有効であり、過去問だけの学習で確実に100点超えができる。ただし、過去問は、傾向分析等ができる20年の学習が必要であり、過去問だけの学習なら10年では合格できない。
1級建築士は、建築士としての幅広い知識が必要である。従って、試験は偏った問題とならないように5科目があり、幅広い項目から出題されている。下記に、計画の分類表であるが、毎年ほぼ同じ項目から同じような問題数が出題されている（R7問題組込は2026年1月に公開）。この傾向は、設備、法規、構造、施工も同じである。**過去問学習が王道**と言われている由縁である。

表1　Ⅰ計画の項目別一覧表（2025年1月からH18～R7をアップ）

表1　Ⅰ計画の項目別一覧表（平成14年～令和3年）

NO	項目分類＼年度	H14（問目）	H15（問目）	H16（問目）	H17（問目）	H18（問目）	H19（問目）	H20（問目）	H21（問目）	H22（問目）	H23（問目）	H24（問目）	H25（問目）	H26（問目）	H27（問目）	H28（問目）	H29（問目）	H30（問目）	R1（問目）	R2（問目）	R3（問目）	出題数（個）	出題確率（%）
1	設計手法								1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13	3.9
2	日本建築史作品	24	24	25	24	25	24		3	2	3		3	2	2	2	2	2	2	2	3	18	5.3
3	西洋建築史作品	25	25	17	25		25	24		3	2	3	2		3	3	3	3	3	3		18	5.3
4	周辺環境	15			17				4	5,16	5		5	4	5,6	5,6	5		5,6	6		16	4.7
5	各部寸法		14,15	14,15	14,15	14,15	14,15	13,14	5,6,7	6,7	4,6,7	4,6,7	4,6,7	5,6,7,8	4,7,8	4,7,8	6,7	7,8,14	4,7	5,8	4,5,6,8	49	14.5
6	バリアフリー	17	16	16	16	13	16	15	8	8	8	8	8	9	9	9	8,9	12	9	4,9	9	22	6.5
7	都市計画作品								[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	11	11	2	12	3.6
8	都市計画論			24					[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	10	10	11	18	5.3
9	住宅・集合住宅施設	9	9,10	10	9,10	10	9		[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	13	13	[illegible]	19	5.6
10	住宅・集合住宅作品	10		9		9,24	10	8		12	11	2,11,12		12	12	12,13	12,13	13	12	12	13	21	6.2
11	事務所・商業施設	11	11	11	11	11	11	10	13	13	13	13	13	14	14	14	14	5,9		7		19	5.6
12	公共施設	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]12	14	14,15	14	14,16		15	15	15	15	4,6,15,16	8,14,17	17	10	27	8.0
13	病院・高齢者施設	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	15		15	15	15	16	16	16	16		16	16	16	13	3.9
14	その他作品	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	17		16		14		17		17	17	15	14,15	14,15,17	15	4.5
15	計画各論総合	14	17	13		16,17	17	16	16	4,17	17	17	16,17	17		17					7	17	5.0
16	施工監理								18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	13	3.9
17	建築積算								19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	19	19	19	13	3.9
18	マネジメント							25	20	20	20	20	20	20	20	20	20	19	20	20	20	14	4.2
	合計問題数	11	11	11	11	11	11	11	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	337	100

注1）項目分類は同類問題の名称を示す。H（平成）R（令和）は出題年度を示す。表内数値（1～20）は問題番号を示す。

出題確率を数値化

次頁で紹介

2. 過去問20年の項目別一覧表

過去問20年は、膨大な量となるので、いかに効率よく学習できるかが重要である。そこで、研究会では、項目別に分類して、その中で全ての選択肢問題を一覧表に取りまとめた（5科目それぞれの出題問題一覧表）。A3伴1枚には、10年間の問題が見れるようになっている。過去問20年で1項目1問題が出ているものは、A3伴2枚で20年間の過去問が見れる。この見えるという状況が非常に重要である。机の上にA3伴2枚を置くことで、過去問20年の全ての問題が見えるので、後述する「**目で見る学習法**」が可能となり、学習効率は数倍に跳ね上がる。さらに一覧表は、類似問題を同じ色分けしているので、同じ色の問題を見比べると、出題変化パターンや出題傾向なども分かるようになる。

建築業界は、非常に忙しく、1級建築士試験に何年も合格できない最大の理由は、「**時間が無い**」の一言に尽きる。「もし」半年間、仕事をしないで1級建築士の勉強だけができるならば、誰でも合格できる（半年間を全て過去問20年の学習ができれば確実に100点超えが可能）。しかし、「もし」は無いので、研究会は、いかに短時間に効率よく学べるかを追求している。学科試験は、結局「**125問の各項目ごとに1点づつを確実に取ること**」であり、そこに美味しい秘策などは存在しない（学習法には秘策がある）。各資料は、PDF化しているので打出し可能であり、更にスマホやパソコンから、何時でも何処でも学習できる。

Ⅰ計画 6.バリアフリーの過去問20年の項目別一覧表（一例）

バリアフリーの問題10問をA3伴1枚にまとめている

6. バリアフリー（1）【Ⅰ計画：過去問20年の類似項目別による出題問題一覧表】

	平成14年度 問題17	平成15年度 問題16	平成16年度 問題16	平成17年度 問題16	平成18年度 問題13
	鉄道の駅舎とつながる複合ビルの計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	高齢者及び身体障害者の利用に配慮した計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	高齢者及び身体障害者の利用に配慮した計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	高齢者及び身体障害者の利用に配慮した住宅の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	高齢者及び身体障害者の利用に配慮した建築物の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1	改札口のある2階のコンコースから複合ビルに通じる通路において、70mの高低差があるので、幅3mで段数3、踏面30cmの階段及び幅2mで長さ11mのスロープを設けた。	公共施設の屋外に設けるスロープにおいて、車いす使用者同士がすれ違えるように、有効幅員を180cmとした。	1.1mの高低差がある幅4mの、階段に代わる簡内傾斜路において、その両側及び中間に手すりを設けた。	階段に手すりを設けるに当たり、両側に手すりを設ける余裕がなかったので、昇る時の利き手側に手すりを設けた。	車いす使用者が利用するキッチンの計画において、固定した食器戸棚の天端までの高さを、車いすの座面から80cmとした。
2	改札口と直接つながる位置に設けられた複合ビル内のエレベーターの乗降ロビーにおいては、「床上100cmの位置に車いす使用者用のエレベーター操作ボタン」と「エレベーターの到着前にその昇降方向等を案内する放送設備」を設けた。	集合住宅の共用エレベーターにおいて、出入口の有効幅員を90cmとした。	近くから視認する案内標示板について、[illegible]の場合にも車いす使用者にも見やすいように、床面から案内標示板の中心までの高さを160cmとした。	階段の始点・終点部分に人感センサーによって点灯する足下灯を設けた。	住宅において、踏場を設けない階段の一部をやむを得ず回り階段とする場合、回り階段の部分は、中間より下階に近い位置に設けた。
3	複合ビルの各階においては、車いす使用者等に配慮した便所を設け、出入口の幅を75cmとした。	公共交通機関における視覚障害者を誘導する経路において、黄色の誘導ブロックは、周辺の床との対比において十分な輝度比が確保できるかぎりとして、黄色以外の誘導用ブロックで輝度比2.5以上のものを敷設した。	階段は、踏面の色と蹴上げの色との明度差を大きくし、点状ブロックを階段の昇り始めの及び降り始めの位置に敷設した。	階段における転落や転倒を防止するために、階段の始点・終点部分が通路に食い込まないように計画した。	多機能便所の広さについて、折たたみ式シートの設置及び介助スペースを考慮して、200cm×200cmとした。
4	複合ビルの主要な出入口においては、エレベーター等の配置を示す白地の総合案内板を設け、案内板の標示には、黄色を避けるとともに、点字による情報を行った。	バリアフリー便所については、一般の便所とは独立して設け、乳幼児を連れた人、大きな荷物をもつ人等、誰もが使いやすいものとした。	エレベーターのかご内に設ける操作盤のボタンについては、押しボタン式とし、ボタンの脇に点字表示を行った。	土間とホールとの段差が10cmであったので、上が引戸の脇には腰掛台を設けるとともに壁には手すりを設けた。	高齢者の利用する施設の案内計画において、高齢者が現対象の存在を知覚することができるように、輝度比2.0を採用した。
5	「複合ビルの主要な出入口」と「総合案内板やエレベーター等」との間に設ける通路において、視覚障害者誘導用ブロックを敷設するに当たり、車いす使用者の通行にも配慮して、その位置を決定した。	車いす使用者が利用するキッチンの流し台上部に固定した食器戸棚の上端までの高さを、車いすの座面から120cmとした。	車いす使用者便所において、便器の脇に可動式手すりを設けた。反対側の壁に水平棒の高さが床から70cmの L 型の手すりを設けた。	台所の調理台、流し台、レンジ及び冷蔵庫の配置は、車いす使用者が利用しやすいように、L字型とした。	玄関扉に設置するドアクローザーについては、高齢者が容易に開閉できるように、開き力を30N・m以下とする。
	解答（正解肢3）	解答（正解肢5）	解答（正解肢2）	解答（正解肢1）	解答（正解肢5）
1	○	○	○	× 階段で片側へ手すりを設ける場合、昇る時の利き手側ではなく、下りが危険なので下りるときの利き手側に手すりを設ける。	○
2	○	○			○
3	× 車いす使用者等の便所の出入口幅は、75cmでは狭く、80cm以上が必要である。	○			○
4	○	○			○
5	○	× 車いす使用者が利用する食器戸棚の高さは、床面から150cmまでであり、車いすの座面（床面40cm）から120cmは床面から160cmとなるので不適当。	○	○	× 玄関扉のドアクローザーは、高齢者が容易に開閉できるように、開き力を30N・m以下とする。

類似問題を色分け

	平成19年度 問題16	平成20年度 問題15	平成21年度 問題8	平成22年度 問題8	平成23年度 問題8
	バリアフリーに配慮した建築物の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	ユニバーサルデザインに配慮した建築物の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	高齢者の利用に配慮した建築物の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	車いす使用者及び視覚障がい者の利用に配慮した建築物の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。	車いす使用者及び高齢者の利用に配慮した建築物の計画に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1	壁に設置するコンセントの取付け高さは、高齢者や車いす使用者が利用しやすいように、床面から40cmとした。	多目的トイレは、長椅子が使える場合も考慮して男女共用とし、右勝手のものと左勝手のものをそれぞれ設けた。	可動式の多目的トイレにおいて、オストメイト用の流し及び多目的シートを設置し、内法寸法を1,600mm×1,600mmとした。	延べ面積2,000㎡の集合住宅の共用エレベーター（ランク付）において、かごの寸法は幅140cm×奥行き135cmとし、かごの出入口の有効幅は90cmとした。	車いす使用者が利用する固定された吊り戸棚の天端までの高さを、床面から130cmとした。
2	公共建築物の実験者用の階段の手摺については、高齢者や子どもにも利用しやすいように、高さが上段60cm、下段80cmの二段式とした。	視覚障害者への案内に用いられる触知図は、誘導ブロックや音声案内と連携させて設置した。	公共建築物のエントランスホール内に設けるスロープは、勾配を1/12とし、手すりをスロープの床面からの高さが650mm,850mmの位置にそれぞれ設けた。	駅舎の通路において、視覚障がい者誘導用線状ブロックを、通路壁面から1m以上離して敷設した。	車いす使用者が利用する体育館に設けるシャワー室に、150cm×150cmのシャワーブースを設け、シャワー用の車いすを用意した。
3	階段は、段鼻の位置を識別しやすいように、段鼻を仕上げるとともに蹴込み板のない形状とした。	エレベーターの乗降ロビーに設ける操作ボタンを床から100cmの高さに設置し、操作ボタンの脇に点字標示を行った。	住宅の台所において、調理台、流し台、レンジ及び冷蔵庫の配置を、車いす使用者が利用しやすいように L 字型とした。	住宅において、壁に設置するコンセントの取付け高さは、高齢者や車いす使用者が利用しやすいように、床面から40cmとした。	高齢者が居住する戸建て住宅の改修において、階段の手すりについては、両側に手すりを設置する余裕がなかったので、昇る時の利き手側に手すりを設けた。
4	階段の起点・終点の手摺の端部については、下側に曲げて、階段であることが識別できるようにするとともに、衣服等の袖口が引っ掛からないようにした。	建築物内の廊下の幅は、車いすのすれ違いを考慮して180cmとした。	公共建築物のエレベーターにおいて、かご内の左右それぞれの側面に、操作盤をかごの床面から1,000mmの高さに設けた。	車いす使用者が利用する洗面所において、洗面鏡の上端の高さは、床面から65cmとした。	高齢者が利用する施設の階段において、高齢者が段差の存在を知覚できるように、踏面と段鼻との輝度比を2.0とした。
5	洗面鏡の下部のクリアランスは、車いす使用者の利用に配慮して、床面から65cm確保した。	ベビーチェアと手すりを設置した洋式のトイレブースの内法寸法を、幅80cm、奥行き135cmとした。			
	解答（正解肢3）	解答（正解肢5）	解答（正解肢1）	解答（正解肢4）	解答（正解肢3）
1	○	○	× オストメイト用の流しがある多目的トイレは、内法寸法1,600mm×1,600mmでは狭く、最低でも2,000mm×2,000mmが必要である。	○	○
2	○	○	○	○	○
3	× 階段は、蹴込み板がないと昇りで足がひっかかる危険なので、蹴込み板を設ける。	○	○	○	× 階段で片側へ手すりを設ける場合、昇る時の利き手側ではなく、下りが危険なので下りるときの利き手側に手すりを設ける。
4	○	○	○	× 車いす使用者の洗面鏡の上端高さは、床面から65cmでは低く、洗面台の下に膝が入る60cm空間を確保するため75cmは必要である。	○
5	○	× ベビーチェアと手すりを設置した洋式トイレ内法寸法は、幅80cm、奥行き135cmでは狭く、最低でも幅140cm、奥行き135cmは必要である。			

注）類似の選択肢問題は、10色（黄色、緑色、青色、水色、オレンジ色、薄い黄色、薄い緑色、薄い青色、薄い水色、薄いオレンジ色）にて分類している。出題問題の図は、手書きとしている。

3. 音声ポイント講座

研究会では、通勤電車の往復などで携帯により過去問を学習するために「**ポイント一覧表の音声読上**」を作成しました。これは、平成7年から最新年度までの問題を項目別に分けて、全てを正解文の箇条書きにまとめている。令和7年の内容は、2026年1月に組み込み音声読上としてアップする予定である。

学科Ⅰ計画の「1.設計手法（一部）」のPDFアップ例

パワーポイント自動読上（一例）

ポイント一覧表の音声読上【学科Ⅰ計画（1.設計手法）1/4】

建築設計者は、建築が近隣や社会に及ぼす影響を自ら評価し、良質な社会資本の充実と公共の利益のために努力することが重要である。
建築設計にかかわる者は、依頼者の要請に応えるとともに、当該建築物の利用者及び社会に対する公益性に配慮して、公正な立場で業務を遂行することが重要である。
建築士は、常に品位を保持し、業務に関する法令及び実務に精通して、建築物の質の向上に寄与するように、公正かつ誠実にその業務を行う。
建築士は、設計を行う建[illegible]法令に適合させて、設計の委託者に対し設計[illegible]容に関して適切な説明を行うように努める。
免許は、一級建築士は国土交通大臣、二級建築士及び木造建築士は都道府県知事から受ける。
建築士は、他人の求めに応じ報酬を得て、建築物に関する調査及び鑑定のみを業として行う場合、建築士事務所を開設して業務を行う。
調査又は鑑定は建築士法の業務であり、不誠実な行為は懲戒処分の対象である。
建築士は、法令違反行為について、指示、相談等の行為をしてはならない。
一級建築士、二級建築士及び木造建築士は、設計及び工事監理に必要な知識及び技能の維持向上に努める。

過去問H7～R1（全文正解肢、短文化、長文＆図有＆極端に難しい問題は割愛、類似問題はできる限り統一化）

ポイント一覧表の音声読上【学科Ⅰ計画（1.設計手法）2/4】

建築計画は、建築の目的や意図に応じて、構造・設備・防災等の様々な専門分野の技術を総合的に調整する。
設計は、計画段階から施工段階に至る多面的な要求の分析を行い、分析から得られた知見を様々な条件を考慮して総合し、一つの具体的な建築空間を提案する。
アカウンタビリティは、一般に、業務や研究活動についての説明する責任のことをいう。
談合は、[illegible]事前[illegible]合[illegible]入札価格や[illegible]札者を決めることであり、独占禁止法で[illegible]止されている。
公益通[illegible]・[illegible]先[illegible]・内部通[illegible]・行政機関[illegible]の通報及び外部通報の[illegible]である。
コンプライアンスは、法令遵守と訳され、法令・条例等の遵守に加えて企業倫理等の遵守も含む。
「公益確保の責務」は、技術者の倫理的義務の一つであり、「公衆の安全、健康及び福利を最優先に考慮すること」である。
「リスクマネジメント」は、危機事態の発生を予防するリスク分析方法であり、リスク組織を指揮統制する活動である。
「モラルハザード」は、保険の領域から派生した概念で「倫理観の欠如」と訳され、企業等が節度なく利益を追求する状態のことである。

過去問H7～R1（全文正解肢、短文化、長文＆図有＆極端に難しい問題は割愛、類似問題はできる限り統一化）

ポイント一覧表の音声読上【学科Ⅰ計画（1.設計手法）3/4】

「不遵守行為」は、個人及び組織を含めて意図的に法令や条例等に従わない行為のことである。
建築物の設計は、建設予定地や類似施設の調査を行い、利用者の潜在的な要求の把握や将来の建築物に対する要求の変化を予測することが重要である。
設計案が提供する性能の検討に縮尺模型やシミュレーションモデルを用いる場合、そこで示されるデータが実際の事物や現象のどのような側面に対応しているかを確認する。
設計案の検討中に生じた問題は、既に決定した事項に対しても、その是非の再検討を行い、必要に応じて、設計案を修正する。
設計は、基本設計から実施設計となる。
集合住宅の計画は、地域の生活様式を含めた類似建築物の使われ方等に関する調査を行い、その分析結果を活用する。
コミュニティ施設の計画に先立ち、建築主の要請に応じ、施設が提供するサービス、運営方法等を検討する会議に参加する。
ユニバーサルデザインは、全ての人を対象としたものであり、障がいの有無、年齢や体型の違い、身体機能の差等に関係なく、可能な限り誰もが利用できるデザインをいう。
「地球環境・建築憲章」(2000年)において、「建築はそれ自体完結したものとしてでなく、地域の、さらには地球規模の環境との関係においてとらえられなければなりません。」と示されている。

過去問H7～R1（全文正解肢、短文化、長文＆図有＆極端に難しい問題は割愛、類似問題はできる限り統一化）

ポイント一覧表の音声読上【学科Ⅰ計画（1.設計手法）4/4】

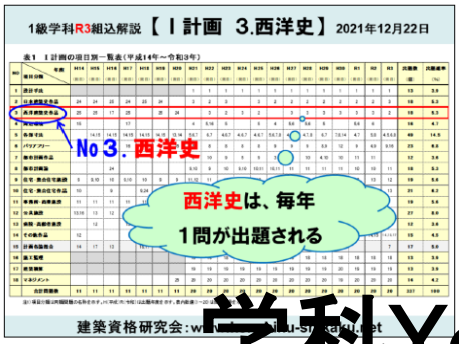
サスティナブル（持続可能）な建築の計画は、自然、風土、地域性、場所性等の認識が重要である。
建築物の設計に当たっては、可能な限り環境負荷を小さく抑え、再利用・再生が可能な資源・材料を使用し、建築の生涯の資源消費を最小限に留めることが望ましい。
建築物は、長期間利用する方が環境負荷の低減策となる（ライフサイクルの考え方）⇒既存施設を解体し新たな建築をつくることは環境負荷の低減とならない。
建築物の長寿命化には、建築物の完成後も継続的に適正な維持管理が行われるように計画の初期段階から配慮する。
コーホート要因法は、過去の出生人口から将来の人口を予測するもの（待合室の単位時間当たりの外来患者数予測や床面積を算定するものではない）。
公共建築物のロビー等の人が集まる空間の規模・寸法や家具配置を計画は、パーソナルスペースに配慮することが重要である。
機械的手法はアクティブデザインであり、パッシブデザインは機械的手法を取らない方法である（パッシブ＝太陽熱を躯体に蓄熱させて夜に自然放熱させて利用するなど）。
パッシブデザインは、建築物自体の配置・形状・窓の大きさ等を工夫することにより、建築物内外に生じる熱や空気や光等の流れを制御し、暖房・冷房・照明効果等を積極的に得る手法をいう。
自然エネルギーを活用する建築は、建築物の形態や配置、開口のとり方や断熱等、建築の基本的な構成に配慮することが重要である。
スマートシティは、広義では、都市が抱える諸課題に対して、情報通信技術等を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体の最適化が図られる持続可能な都市又は地区をいう。

過去問H7～R1（全文正解肢、短文化、長文＆図有＆極端に難しい問題は割愛、類似問題はできる限り統一化）

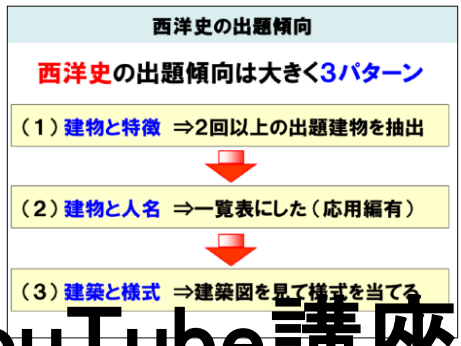
4. 学科YouTube講座

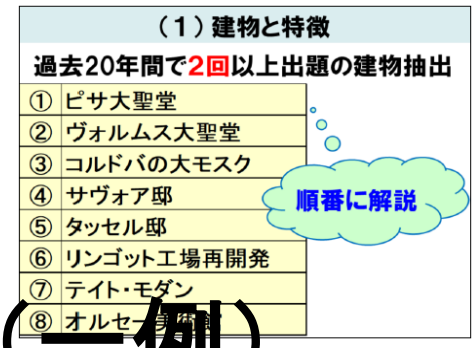
2021年4月から携帯・パソコンでの学習効率を高めるため、学科YouTube講座を開始した。
学科YouTube講座は、下記6項目での構成となる(R7問題組込は2025年11月以降アップ中)。
本講座は、一度YouTubeとして公開し、その後に会員講座内で一覧表として再アップする。また、紙ベースで打出して学習できるように、PDF(ノート形式)も一緒に掲載する。内容は、できる限り分かりやすい図や表などを組込ながら資料作りをする(著作権対応から手書きで綺麗な図ではない)。下記に参考として、学科Ⅰ計画の「3.西洋史(一部)」のPDFアップ例を示す。

(1) 学科共通事項のYouTube講座 ⇒適宜アップ
(2) Ⅰ計画の項目別YouTube講座 ⇒2026年1月にR7組込アップ予定
(3) Ⅱ設備の項目別YouTube講座 ⇒2026年2月にR7組込アップ予定
(4) Ⅲ法規の項目別YouTube講座 ⇒2026年3月にR7組込アップ予定
(5) Ⅳ構造の項目別YouTube講座 ⇒2026年4月にR7組込アップ予定
(6) Ⅴ施工の項目別YouTube講座 ⇒2026年5月にR7組込アップ予定



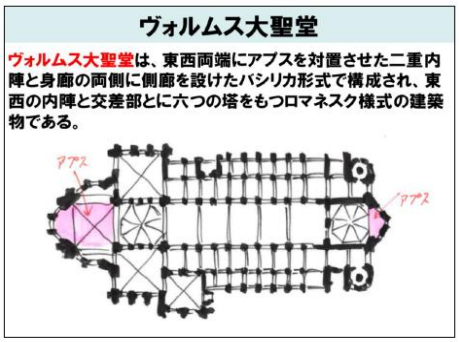
このユーチューブは、見るだけで、今年の学科試験に合格できたといって



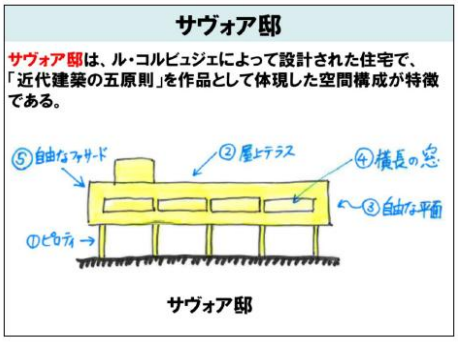


(1)建物と特徴では過去20年間で2回以上出題のあったものを抽出して説明します。

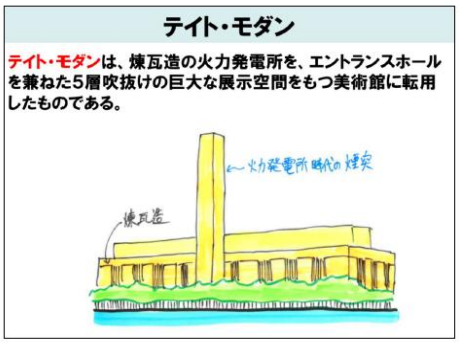
学科YouTube講座(一例)



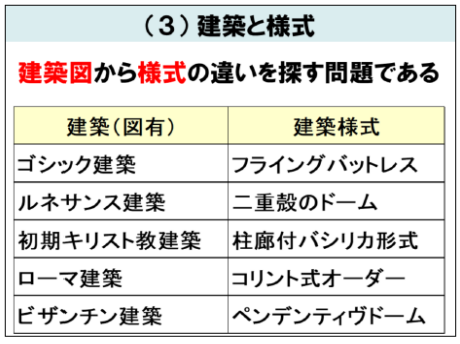
ヴォルムス大聖堂について説明します。
ヴォルムス大聖堂は、東西両端にアプスを対置させた二重内陣と身廊の両側に側廊を設けたバシリカ形式で構成され、東西の内陣と交差部とに六



サヴォア邸について説明します。
サヴォア邸は、ル・コルビュジエによって設計された住宅で、「近代建築の五原則」を作品として体現した空間構成が特徴です。
図はサヴォア邸ですが、その中で、近代建築の五原則である①ピロティ、②屋上テラス、③自由な平面、④横長の窓、⑤自由なファサードの全てが採用されています。



テイト・モダンについて説明します。
テイト・モダンは、煉瓦造の火力発電所を、エントランスホールを兼ねた5層吹抜けの巨大な展示空間をもつ美術館に転用したものです。
図にあるように、火力発電所時代の煙突がそのまま残っています。



建築(図有)	建築様式
ゴシック建築	フライングバットレス
ルネサンス建築	二重殻のドーム
初期キリスト教建築	柱廊付バシリカ形式
ローマ建築	コリント式オーダー
ビザンチン建築	ペンデンティヴドーム

(3)建築と様式について説明します。
ここの問題は、建築図から建築様式の違いを探す問題です。
以下は、すべて正解ですが、この中の建築様式を変えてものが出題されています。
フライングバットレスはゴシック建築、二重殻のドームはルネサンス建築、柱廊付バシリカ形式は初期キリスト教建築、コリント式オーダーはローマ建築、ペンデンティヴドームはビザンチン建築です。
以下、この図を示します。

この図の建築様式は、柱廊付バシリカ形式であり、初期キリスト教建築です。

この図の建築様式は、ペンデンティヴドームであり、ビザンチン建築です。

5．その他（他社書籍との相違点等）

(1)一般書籍

一般に市販されている書籍は、大きく分けると次の3パターンに分類できる。

①過去問の解説書

過去問7年等を年度別に解説している。過去問7年では、出題傾向が把握し難い。

②項目別に分類した解説書

5科目の各項目ごとにポイント等を解説している。情報量があまりに少ない。

③試験関連の建築専門書

基本事項である建築専門書（構造力学等）である。基本情報が多すぎる。

(2)研究会資料

研究会資料は、各項目の1点を「如何に効率良く取るか」を目的としており、以下の特徴がある。

①過去問と項目別とを融合させた一覧表

過去問20年を項目別に分類し、A3伴1枚が10問題として一覧表にまとめた。比較検討し易い。

②音声ポイント講座

平成4年からの問題を全て正解文にした箇条書き一覧表を音声ポイント読み上げとしている。

③学科YouTube講座

パワーポイント解説をYouTubeにアップし、HP内で再アップしている（PDF資料もある）。

※「合格」することを第一に

「建築」は奥が深く、様々な知識を学ぼうとすると泥沼に入りかねない。
試験は、問題を解答できなければ意味がない。まずは合格すること、自己の学習環境を考慮して最も効率良い学習法を選択し、合格基準点の90点（確実な合格は100点）を取ることに専念する。

※なぜ毎年「合格できない」のか？

毎年、かなり学習したのに合格できない最大の理由は、出題内容がより細分化されている点にある。出題傾向は、過去問7年程度では把握できない、過去問だけの学習で合格するなら、過去問20年の学習は必須である。

※近年は「戦略的な点数取り」を目指すべき

ひたすら学習するのではなく、Ｉ計画ならどの項目を確実に取るかなど「戦略を持って」合格点を目指すべきである。近年、建築作品が6問も出題されたり、単純な学習では足切点にかかる傾向もある。作品以外の項目は、必ず取って11点にたどり着くという戦略的な学習法も必須と言える。

※「資格学校」へ通学すると合格できるのか？

一般に、通学での合格は、早い方で2年、通常3～5年はかかると言われている。資格学校の講座は、全ての教科を満遍なく講義する学習であり、この学習法では、週1の講義で合格するのは厳しい。なお、学科試験だけなら過去問20年の学習だけで合格は可能である。

※合格率は低いが、世の中にはもっと･･･

1級建築士のストレート合格率は、学科20％製図40％として0.2×0.4＝8％となる。学科試験は、約3万人が受験して約6千人が合格する（合格率15～20％）。他方、囲碁のプロ試験は、日本棋院で1年間に3人しか合格できない。全国大会優勝などした方が、毎日10時間以上を学習しても、プロ試験（3人）に合格できない方が多々おり、プロを断念している。1級建築士も厳しい試験だが、約6千人が合格できるので、まだ希望が持てる試験に感じる。

注）研究会は、市販の書籍や各種資格学校の対面学習などを批判するものではなく、効率良く学習できる方法を提案しているものである。
多くの方から資格学校の講座はあまりに高額で何とかして欲しいとの意見があり、そのような方への一助になれればと願っている。